

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームえんじゅの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500360		
法人名	社会福祉法人ふるさと福祉会		
事業所名	グループホームえんじゅの里		
所在地	岩手県奥州市水沢真城字杉ノ下131番地		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	平成31年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0391500360-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念に基づき職員全員でチームウェイを掲げ、毎月評価・改善し業務に取り組んでいます。又回想法ライブラリー(昔の暮らし等)のDVDや懐かしい歌謡曲を流したり、唄うことで精神の安定を図っています。地域の方々とふれあいの場を多く持ち、グループホームを理解して頂いています。定期的な歯科指導による、口腔体操や季節を取り入れたレクリエーション、各月のボランティアによる踊り等で交流を楽しんでいます。法人のイベントに参加や近くの産直の買い物、ドライブ等に出掛け気分転換を図り楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の具体的実践に向けた目標(チームウェイ)を掲げ、その経過や実践の状況を職員相互に評価しながら取り組み、今年は、小学生やボランティア(星の会)との交流に力を入れている。DVDを使った回想法を取り入れ、昔の農機具や子供の頃の思い出、戦争の話などで皆が盛り上がり、生き生きとした表情で得意げに説明する利用者の姿が見られる。毎日のコーヒータイトムでは利用者へ寄り添いながら利用者への理解を深めている。今後も、“地域の中で利用者一人一人を尊重した支援”の大切さを自覚しながら、支援に努めていきたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

平成 30 年度

事業所名 : グループホームえんじゅの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境での自立支援、利用者が孤立することなく地域の一員として生活出来るように地域交流も取り入れ地域のかげ橋になれるよう努めている。	理念の実践に向け、日常的な実践目標「チームウエイ」を掲げ、経過や実践の状況について毎月の会議で職員相互に評価し、実践できた項目は新たな目標を設定して、日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のイベントに参加したり、ホームのイベント事には近隣住民の方に参加頂くよう運営委員の方に声をかけて頂いている。踊りのボランティア、小学生の来訪による発表会、児童センターとの交流も図っている。	昨年、小学2年生が社会課授業の一環として来訪し、歌や合奏を通じた交流の機会としたところ、利用者の満面の笑みと談笑が見られたことから、今年も12月に来訪を予定している。事業所前からスタートする市のきらめきマラソンでは、選手に声援を送っている。地域から、野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、実践で積み上げた認知症の理解や支援方法などわかりやすくアドバイスできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を通してホームの活動を理解して頂くとともに、活動にも参加して頂き委員の皆様にも率直な意見を聞きサービスの向上に努めている。	メンバーに4人の地域代表がおり、情報提供や貴重な提言も多く、避難訓練や夏祭りのミニ運動会に参加するなど、ホームの行事にも協力的である。委員の提案により、災害時、外部へ知らせる拡声器が設置されている。	会議はホールの一角で開催しているが、職員の参加はない。新たな気づきや提案なども見られ、職員の教育の機会にもなると思われることから、職員の参加について一考されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にも参加して頂き、実情を把握して頂くなど協力関係を築いている。半年毎に介護相談員の方が訪問し、利用者とは面談を行い、その内容をもとにサービスの改善に努めている。	認定調査や事故の報告、相談等で直接市へ行くことが多い。運営推進会議のメンバーでもあり事業所の状況や利用者の様子も理解してくれている。地域包括支援センターとは、入居の相談や困難事例について、協働して解決策を探ることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県の身体拘束実態調査をおし職員全員で身体拘束の廃止に向け取り組んでいる。又3カ月ごとの法人の身体拘束委員会に出席し身体拘束をしないケアについて話し合いを持っている。	市の研修や内部研修などに参加し知識を深めている。玄関は日中施錠せず、居室のセンサーの使用もない。転倒防止のため家族に了解を取り、車椅子をテーブルに近寄せする場面もあるが、待ってもらう場合などは、一言添える配慮など、職員同士で確認し合い、身体拘束をしないケアの意識は高い。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で、言葉や、態度によるものも含めて職員間で話し合い虐待防止に努めている。利用者一人ひとりにあった声掛けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の社内研修で権利擁護に関する制度の理解に努め、利用者様が活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には入居後の生活についての不安軽減の為に、本人、家族様に要望・意見を伺い十分な説明話し合いを行うことで理解、納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び方法について玄関に掲示し「ご意見箱」を設置している。毎月家族様へのおたよりの中に意見、要望の欄を設けている。日頃から家族様には利用者様の状況報告を行いご意見、要望を伺えるように努めている。	玄関にある「意見箱」には時々、感謝の文面が入っていることもある。毎月担当職員が請求書に併せ「おたより」を郵送し、意見、要望等を伺っている。通院時に車椅子から車への移動が困難との申し出があり、介護タクシーの利用を勧めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月経営管理会議に出席し、諸伝達事項の周知や職員の意見を聴取それを反映させる場としての機会を設けている。又理事が直接来所され意見を聞くばにもなっている。	施設長は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、事業所で判断が困難な提案等は速やかに経営会議に諮っている。夜勤手当や報酬など待遇に関する事や個人的相談もある。職員の要望で12月から法人による個人面談が予定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部の研修会の参加や他施設との交換研修をとおして向上心を持って働けるようにしている。法人としての資格所得の助成制度を行っている。職員の勤務状況を把握し、やりがいをもてるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の年間計画を立て、職員の知識、技術向上に向け取り組んでいる。外部で開催される各種研修への参加があった場合は、毎月の職員会議で伝達研修の機会を設け、職員ケアに対する資質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会定例会参加や交換研修をとおして情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時も含めて、本人、家族様の不安と要望を聞かせて頂き、職員間で話し合い、本人が住みやすい環境、安心して生活して頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前及びその後の面談の中でご家族の話をよく聞かせて頂き不安を解消できるようにサービスを提供することで、安心して頂けるよう要望等に耳を傾けながら良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの対応が困難な場合が発生したときには、本人、家族様の理解を得た上で他のサービスの利用を含めた対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべてやるのではなく、掃除、洗濯干し、たたみ方、茶碗拭き、草取り、収穫等、ご本人のできることをやって頂き、教えあったり、励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時や行事の際、又は電話や毎月のおたより、広報にて利用者様の様子を伝え家族様との絆を大切にしながら、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、知人、友人の面会時には居室でゆっくり過ごして頂くよう雰囲気作りを心がけている。又居室以外でもくつろげる場所を設けている。なじみの美容院に行く方、家族様と一緒に温泉、墓参りに出かけたり、連休等には自宅に帰られる方もいる。	友人数人の来訪時には、寛いだ楽しい時間となるようテーブルや椅子、お茶を出し、訪問歯科のスタッフやボランティアとはゲームをしたりアイスを食べに行くなどするようになった。ドライブの際には、自宅周辺を巡り、思いが途切れないようにしている。正月やお盆には外泊する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、利用者様同士が関わりを持つことで、下膳できない方の下膳をしたり席の場所を教えたりと支え合えの様子も見られる。必要に応じて職員も間に関わることでその場の雰囲気づくりを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には、利用者様の状態や情報の提供を行っている。又、面会に行き、経過の情報を得て退院後の支援に役立てている。他の施設に移られても、家族様や他施設の方と連絡、相談を取り合い本人が望む生活ができるように対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、言動、表情を観察しその中で思いや希望を把握するように努めている。本人からの確認が困難な場合は、家族様の協力も頂きながら意向の把握に努めている。本人、家族様より得た情報を職員間で共有し、希望や思いに寄り添った支援が出来るように努めている。利用者様の担当職員を決め、より親密な支援の提供に努めている。	午前のコーヒータ임には、新人も含めて全員が利用者に関心を持って寄り添い、一緒にゆったりとした時間を過ごしている。食後、落ち着いた利用者がいれば、茶碗洗いを手伝おうとするその意を汲み、キッチンの流しの近くにいていただき、また、管理者が気づいた利用者の様子は、その都度職員にアドバイスするなど、職員全員で利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り本人から聞き取りを行うと共に、入居前の生活歴を家族様、ケアマネジャーから情報収集している。面会時情報交換を通し、これまでの生活歴等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで生活できるよう、業務日誌健康チェック表、申し送りをおして状態把握に努めている。月1回の職員会議で周知徹底を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で評価を行うほか毎日の申し送りにて現状に合った支援ができるようにしている。利用者様の状態により計画の見直しや、本人、ご家族の要望、意見を聞き半年毎の介護計画に活かすようにしている。	業務日誌の記録を個人ファイルにまとめ、予め職員会議で意見を出し合ったうえで介護計画を作成している。家族の意見は来訪時に聴きとり、反映させている。見直しは6ヵ月毎に行なっており、必要時には、随時見直し、より良い介護サービスの提供に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ファイルにて職員の統一したケアを心掛けている。日常生活での気づき、小さな変化等を職員間で話し合い計画の見直しを行っている。変化や注意点など見やすく、把握しやすい記録を心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況をを確認して画一的にならないよう個人々の状況に合った支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々の訪問があり、運営推進委員の方々や地域の広報誌等で情報を得、様々な行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居後も継続し、家族様の協力を得ながら定期的に受診している。主治医へホームでの様子を伝え、連携を図っている。利用者様の状態により職員が付き添い受診することもある。	受診は、入居前のかかりつけ医とし、家族の同行を原則としている。受診日は「おたより」や電話で確認している。受診時は必要に応じて情報を詳細に伝え、緊急時や家族の対応が困難な際には、職員が対応するなど、適切な治療が継続できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調変化時は看護師に様子や状態を報告し、指示を仰ぎながら早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者様の状態や情報の提供を行っている。又、面会に行き、経過の情報を得て退院後の支援に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた指針は作成している。具体的な看取りの対応については、入居時家族様に事業所でできることを十分に説明し理解頂いている。	法人として「看取りに関する指針」は作成しているが、看取りの体制が整備されていないため、現時点での対応が困難である旨を家族に説明し、理解を得ている。急変時や重度化した際の対応については、家族の意向を踏まえ、医療機関や特養へ紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変や事故等に備えている。定期的に救命救急の研修を受講し、実践に備えている。AED使用訓練も行っている。救命サポーターステーションになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと、年2回昼夜を想定した火災避難訓練、通報訓練を行っている。地域の方の参加も頂き行っている。近隣の協力体制のもと、避難場所は真城地区センターとなっている。又、発電機、非常備品も準備している。台風発生時には一早く台風にも備え夜間2人対応等を行っている。	運営推進会議の委員の協力を得ながら、職員が車椅子利用者役や重度の利用者役として、夜間を想定した訓練を実施している。消防署から地震時の指導もあり、運営推進会議で話し合うなど、訓練を振り返りながら、実効性のある取り組みとしている。発電機などの備品や3日分の食料を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての敬意と尊厳の保持を念頭に、それぞれの利用者様の性格や気質を理解し、その方に合った声掛けや声の強弱等で対応している。プライバシーの保護を注意し、記録等個人情報の取り扱いに注意している。	慣れ親しんだ中にも人生の先輩であるという気持ちを忘れないよう心がけ、支援している。肌合いや気性などに配慮し、席の場所や声掛けを工夫して対応している。トイレ誘導時には、耳元で声掛けし、事務室に保管する業務日誌にはイニシャルで表記するなど、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、常に本人の思いや、希望を聞きいれながら自己決定できるよう心掛けている。自己決定が難しい方には、決定を促すような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活をとおして、利用者様のペースで過ごせるよう、本を置いたり、テレビを見る方、居室でのんびり過ごす等一人ひとりの希望に沿った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理容ではご本人の希望を聞きヘアカットをしている。季節や行事には利用者様と相談しながら決めている。お化粧を楽しむ、身だしなみに気を使う等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑の野菜と一緒に収穫し、その野菜を食卓に出している。旬の食材を多く取り入れた献立や行事食を取り入れたり、食器拭き等の後かたづけと一緒に行って頂き、それぞれのレベルに応じた声掛けにより、場面設定を行っている。	職員が食材購入、献立、調理を行ない、3食とも職員とテーブルを囲んでいる。事業所の自家菜園で採れた野菜や、近所の方の差入れも楽しんでいる。季節の食べ物やクリスマス、敬老会、正月等の行事食、誕生日の特別食、時には出前で好きなものを注文して、皆で一緒に楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じた調理形態の提供や、水分摂取量を毎日記録し、摂取が進まない場合はその方の嗜好を考慮した食品を提供する等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の訪問により口腔体操や肺活量を活かしたゲーム等を行っている。食後の口腔ケアの実施、介助の必要な方には一緒に行っている。、夜間は洗浄剤にて清潔を保ち、口腔内に異常が見られた場合は、家族様に報告し協力医の訪問を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表により、個々の排泄パターンを把握するとともに行動観察を見逃さず声掛けにて、トイレで排泄が出来るよう支援している。	ほとんどがリハビリパンツにパットを併用しているが、布パンツの人や完全に自立している人も数名いる。オムツ使用者はいない。夜間も全員がトイレで排泄し、ポータブルトイレの使用者はいない。様々な支援により、リハビリパンツから布パンツへ改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は麦ご飯にし、繊維質の多い食事の工夫、毎日の手作りヨーグルト等で自然排便を促す取り組みを行っている。こまめに水分補給を行うとともに、体操やレク等で体を動かす機会を作っている。また、下剤調整により排便コントロールをしている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望により入浴が変わったり、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間をずらして声掛けを行っている。それぞれの入浴に合わせ温度調整や長湯等行っている。シャワー浴の方は容器に足を浸け、背中にタオルをかけて体が温まるまでかけ湯を行っている。	入浴日は週2、3回、午後としている。入浴時間は15分～40分位で職員と話したり、歌ったりして寛いでいる。好みの湯温に合わせ、入浴順を考慮し、しょうぶ湯やゆず湯、温泉の入浴剤で楽しく入浴できる工夫をしている。体調等からシャワー浴や足湯の方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じ、自由に休憩して頂いている。日中、適度な活動を促し、生活リズムをすることで安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋を管理し、いつでも確認できるようにしている。服薬セット時と服薬時は2名で名前と薬の確認を行っている。体調に変化があった時は、記録しご家族様に連絡し早期対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、テーブル拭き、お膳拭き等それぞれの生活歴や得意なことを把握し、その方らしく過ごせる役割が持てる場を作りだせるよう努めている。誕生会や歯科指導でのレクリエーション等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周りを散歩し気分転換を図っている。又職員と一緒に買い物に出掛けたり、ドライブやデイサービスでの行事に参加している。また、家族様の協力で外泊、外食等をされている。	散歩はホーム周辺を10分以上、ホーム内での日光浴を兼ねた室内散歩は、車椅子の利用者も参加している。行きたい場所を口にしないが、誘って出かけると喜び満足げである。花見や紅葉狩りには全員で出掛け、ドライブを兼ねて楽しんでいる。家族の協力を得て、温泉や外食に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より小遣いを預かっている方もいる。必要な物がある時は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様や知人からの電話は取り次ぎをしている。毎年自筆の年賀状をご家族や知人に出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール壁面等には各行事の写真を貼り楽しんで頂き、「今の季節」コーナーでは作品を飾り、季節を感じて頂いている。ホールは吹き抜けの造りになっている。状況に応じた環境整備(温度・湿度・照明等)に配慮している。	天井が高く天窓から陽が差し込み、室内は明るく柔らかな雰囲気である。壁には、大きな干支の貼り絵やカレンダーがあり、コーナーには季節の飾り付けがなされている。事務室との境が低く職員が全体を見渡すことができる。利用者は、ほとんどをホールで元気に過ごし、長い廊下は利用者の機能訓練の場ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビ、ソファがあり、寛げる場所となっている。座席は配慮し気の合った方同士が思い思いに過ごせるよう工夫している。時々気の合った方同士、お部屋を借り会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのある物をご持参頂いている。利用者様の希望により写真、テレビ、筆筒をご持参され居心地良く過ごせるようにしている。ご家族の写真やご本人の好きな物を飾る等で安心して過ごせるように配慮している。	部屋は清潔に保たれ、洗面台とベッド(家具調と介護用)クローゼットが配備され、利用者は、チェストや時計、籐椅子など使い慣れた物を持ち込んでいる。家族との写真や花を飾り、家族の協力で明るく楽しい雰囲気の部屋にしたり、ホームのミニ運動会の表彰状を思い出に飾るなど、自分の部屋らしくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋、トイレが分からなくなる方に矢印を表示し、わかりやすくしている。背の低い利用者様には足台を作り、床に足がつくことで安心感が得られるようにしている。それぞれの利用者様の動線、生活習慣に応じた環境整備を行い安全に生活できるようにしている。		